

ひがし労 東京

皆で、育てよう！「一般協議会」あなたと創ろう日本労働運動の未来！

大会宣言

JR東労働組合は、9月5日に高崎市労使会館において「内を固めつつ外へ打って出る闘いを展開し日本労働運動の未来を切り拓こう！！」をスローガンに第5回臨時大会を開催した。「個人加入」とその対応機関として「一般協議会」を確立し、組織展望を切り拓く運動方針を満場一致で確認した。

第4回定期大会では、「JR東日本以外のあらゆる労働者の結集」を呼びかけ、8月の各級機関代表者会議で「個人加入」の促進を提起してきた。友人・知人・関連会社・OBなどへの加入の働きかけによって、コロナ禍で多くの労働者が雇用危機に立たされている厳しい実態をつかみとってきた。そして、労働組合の必要性を訴え、多くの労働者が加入の意思を示してきた。また、「一般協議会」を各都道府県に結成するために、東京地本やOB会が先駆けて、東京都や栃木県での確立に向けて着々と準備を進めている。

今、新型コロナウイルス感染拡大の影響による雇用への打撃が広がり、収まる気配を見せていない。7月の非正規労働者は2,043万人となり131万人減少している。その中でも6月末での契約を更新してもらえない派遣労働者が125万人に上っている。また、解雇や雇い止めは9月に入って5万人を超え、休業者は220万人と高い水準で推移している。今後、更なる業績悪化で人員の余剰感が高まり、社員を抱えきれず、休業者を解雇・雇い止めしていく企業の増加が懸念される。労働者がコロナ禍を理由に、容赦ない解雇や休業、賃金不払い、労働条件の改悪などで貧窮にあえいでいる。コロナ禍で労働者を奈落の底に落としこめてきたのが辞任表明した安倍首相である。そして、自民党総裁選では談合派閥政治が完全復活し、安倍暗黒政治を継承しようとしている。このような中で、JR東日本は第1四半期決算を発表し、売上高は過去最低、発足以降初めて赤字を計上した。そして、「変革 2027」のスピードアップや「収入とコストの構造変革」を掲げた。その中で、列車ダイヤや運賃の見直しの検討、チケット・キャッシュレスの推進、ワンマン運転の拡大、ドライバレス運転の実用化、スマートメンテナンスの推進を加速させようとしている。このことによって、効率化や外注化を推し進め、要員削減と労働の複務化を目論んでいる。

一方、経団連は2019年5月に富田哲郎氏が委員長を務める労働法規委員会を開催した。有識者から、「企業内に労働者代表組織が法制化されると、その企業内に労働組合が新たに結成される余地は極めて小さくなる」「従業員組織が既に組織化されている企業では、労働者代表制として機能するならば労働組合はいらない」などの提言が出されている。このような動きの中で、JR東日本は労働者代表制の法制化を見据えて、18春闘を契機にJR東労組との労使共同宣言を失効させ大量脱退を導き、その受け皿として社友会を確立した。労働者代表制が法制化されれば、現行の労働三法（労働組合法、労働基準法、労働関係調整法）も改正され、社員の過半数を持たない労働組合には団体交渉権を与えられなくなる。労働組合がなくなれば、企業による効率化や外注化の推進、人件費の削減などスムーズに成し遂げられることになる。ゆえに社友会は企業にとって都合の良い「労働者委員会」になっている。

JR東労組は、「コロナ禍での赤字は雇用危機」「雇用を守るために黒字経営をつくる」などを題目とした職場討議資料を連続して発行している。国鉄末期の赤字と照らし合わせ雇用危機をことさらに煽り、手前勝手にあらゆる会社施策を担っていくことを提唱している。組合員に会社の諸施策を担わせ、その手土産に労使関係の修復を哀願している。他方、「ひがし労の動きは党派によるJR東労組破壊に他ならない」とお門違いも甚だしく、ひがし労の組織力におののいている。『選択』9月号では、御用組合運動を推し進めてもなお、革マルというレッテルを貼られている始末なのだ。コロナ禍でどん底に落とされている労働者を歯牙にもかかず、会社の手先と化しているのがJR東労組なのである。

コロナ禍で、従業員を一斉解雇したタクシー会社に対し、個人加盟型の労働組合が団体交渉し、加入している組合員の解雇撤回を勝ち取っている。雇用や賃金、労働条件を守るため、相手企業と団体交渉ができる労働組合の存在価値が問われている。

JR東労働組合は、コロナ禍と労働者代表制に鑑み「JR東日本以外のあらゆる労働者の結集」を呼びかけ、「個人加入」を勝ち取っていく。JR内においてもコロナ禍に乗じた賃金抑制、効率化・外注化施策に抗して闘い、社友会や未加入者、他労組の犯罪性を暴露し組織拡大を図っていく。新たな組織展望を明確にし、赤々と燃えたぎる怒りの松明を照らし続け、日本労働運動の未来を切り拓いていく！

以上、宣言する。

2020年9月5日

JR東労働組合第5回臨時大会

9月5日、JR東労働組合第5回臨時大会を高崎労使会館で開催。東京地本から代議員5人全員参加、議題の①予算の再編、②規約改正、③役員補充、全ての議案を採択。堀口君を副委員長に選出し臨時大会は成功裡に終了。その後、各級機関代表者会議が開催され、秋のたたかいが提起されました。